

1 ロケツーリズムを活かした商工観光振興事業（R2年度実績）

①事業の背景目的

市への観光客数は「あまちゃん」放送後の平成26年をピークに放送前の観光客数に戻りつつあり、ブームを一過性にせず、交流人口の拡大につながる取組が急務となっている。このような状況の中、海外では、アジア等10カ国で「あまちゃん」が放送されるなど、外国人観光客の認知も日毎に増加していることから、「あまちゃん」と久慈市を結びつけ、久慈市のファンを継続的に獲得していくことにより、関係人口の拡大を目指す。

また、ロケによる効果的なPRで地場産品の認知性を高めるとともに、ふるさと納税者を増加させることで、地場産業の振興につなげる。更には、あまちゃんに関連したコンテンツと体験型観光を連携させることで、実際に久慈市を体感してもらい、移住定住者の増加を目指す。これらの取組により、観光を基軸として地場産業の拡大、雇用の維持、移住促進を進めることで持続的な地域振興を目指す。

②計画期間

令和元年度～令和3年度（3カ年）

③令和2年度事業実績

単位：円

事業内容	事業費(A)	交付対象額(A)×1/2
1 ロケツーリズムを活かした商工観光振興事業	23,134,443	11,567,221
(1) 「あまちゃん」を活用した誘客事業		
①ロケツーリズム推進事業		
・ロケツーリズム協議会参加に係る費用（委託料） 観光庁が主催する協議会に参加し、先進的な取り組み等を研修した他、映像制作者との商談会、情報交換を行った。 (7/16、9/24、11/12、1/20、2/18)※11/12以外はオンライン参加	275,000	
・ロケ専門誌全国ロケ地マップ掲載による情報発信（委託料） 全国各地のロケ地を紹介するパンフレットへ「あまちゃん」のロケ地として掲載し、15,000部を全国の自治体や駅、公共施設などで配布した。	220,000	
・全国ロケ地域によるふるさと甲子園参加に係る費用（委託料） ふるさと甲子園が中止となり、代替としてロケ専門誌にご当地グルメを掲載した。	55,000	
・新たに誘致した映画の久慈市版ロケ地マップ作製（委託料） 劇場映画『星屑の町』の久慈市版ロケ地マップを作成。全国の上映館、観光施設等120カ所に10,000部を配布。	2,520,000	
・ロケ地プロモーション（セット展示、PRイベント）（委託料） 『星屑の町』のセットや衣装の展示、映画の世界観を感じられる「星屑の町思い出館」を山根市民センター内に開設。その他、ロケ地看板を3カ所に設置した。	473,000	
・観光ガイドブック作成（印刷製本費） 久慈市観光ガイドブックをリニューアル 10,000部 北限の海女、北侍浜野営場リーフレットの増刷 各5,000部	2,026,200	
・CMや観光情報誌を活用したPR（広告料） 岩手日報(岩手マリンキッズプロジェクト)253,000円 映画館でのCM上映 297,000円 誘致映画に関する当市PR動画作成 770,000円 市内イベント、体験メニュー等広告掲載 85,200円	1,405,200	
・ロケ地を活用した誘客イベント等開催（負担金） あまちゃんのロケ地をPRするため、イラストを使ったマップを作成し観光客やイベント参加時(ゆるキャラ)などに配布した。 あまちゃんのシーンをモチーフとしたイラストのしおりを作成し、駅前観光交流センターにおいて配布した。 ゆるキャラグランプリに参加し、ロケ地グッズや当市の観光ガイドマップ等を配布し、感染症収束後に向けたPRを行った。 八戸市、二戸市と連携し3市をめぐるツアーを実施、市内観光施設見学とあまちゃんガイドによる市街地周遊等を実施した。	1,730,000	
・ファン交流イベント（負担金） あまちゃん出演者で創作あいちすとして活躍しているのんさんに絵画の制作を依頼、駅前観光交流センターに展示。お披露目に合わせたイベントを企画したが、情勢により、来場者をメディアに限定、のんさん来久に代えビデオメッセージを紹介した。また、公開に併せ絵画紹介カードを作成し、駅前観光交流センター来場者やファンクラブ等へ配布した。	830,000	
・ロケセット等展示施設運営（負担金） 久慈市観光物産協会に委託し「あまちゃん」のロケで使用されたセットや衣装を展示する施設を運営、7月からはあまちゃんハウスから駅前観光交流センターに移転し観光客の拠点を整備し誘客を図った。	1,740,000	
・あまちゃんマラソン大会開催費（負担金）※開催中止 新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴い中止した。 【開催日：令和2年9月27日】 【参加者：0人】	0	
② 外国人観光客誘客事業		
・トップセールス台湾プロモーション（委託料） 新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴い事業を中止した。	0	

(2) 体験型観光推進事業				
①自然体験推進事業				
・教育旅行受入環境整備（報酬）	0			
・教育旅行受入対応（給料）	0			
・教育旅行受入対応（職員手当）	30,127			
・教育旅行受入対応（消耗品費）	99,456			
・教育旅行受入対応（対応車両燃料費）	0			
・誘致用体験パンフレット作製（印刷製本費）	275,000			
・体験プログラム周知（広告料）	141,900			
・シャワークライミング体験インストラクター養成	0			
・ウォーキングパンフレット作成（委託料）	440,000			
教育旅行受入のため、以上の事業を実施した。 R2年度受入実績：44件				
・体験観光受入体制構築（補助金）	9,500,000	11,860,043		5,930,021
都市住民との交流人口拡大、地域特性を生かした体験型観光推進及びヘルスツーリズム健康増進事業実施により更なる交流人口拡大等を目的として、（一社）久慈市ふるさと体験学習協会の運営に係る補助を実施。				
・ヘルスツーリズム新聞PR（広告料）	275,000			
・ヘルスツーリズムコース管理（委託料）	98,560			
久慈へするツーリズムの周知を図るため実施。月間chouchou8月号（デーリー東北）草刈りなど十二支巡りウォーキングコースの環境整備業務を実施（委託：6月～9月）				
②自然体験メニュー拡充推進事業				
・三陸ジオパーク推進協議会事業（協議会負担金）	500,000			
当市が所属する同協議会北部ブロックにおいて、ジオサイトを巡るツアーを実施したほか、中部・南部ブロックと合同での研修等により、三陸ジオパークの理解を深める活動を行った。				
③体験型観光推進事業				
・民泊整備事業（補助金）	500,000			
農林漁家民泊の受入態勢を強化するため、住宅改修に対する補助を実施。 【実績：1件】【工事費：1,377,640円】 【補助額：500,000円（1/2補助、上限500千円）】				

④事業の課題

2020年3月公開の「星屑の町」は公開タイミングもあり、話題性としては厳しく、その後のロケ地プロモーションも難しかったが、ロケセット展示施設には関東、関西からの来館もあり限定的な効果はあった。
新型コロナウイルス感染症の影響により、イベント実施や2年度中の誘客を行うことが難しく、女優「のん」の制作した絵画をYOMUNOSUに設置するなどの受入れ態勢の整備が主となった。

教育旅行関係

県をまたぐ移動の自粛など県外からの教育旅行受入が困難であったことから、県内小中学校（132校）・旅行会社（21社）へパンフレットを送付するなどマイクロツーリズムの推進に取り組んだ。

⑤重要業績評価指標

重要業績評価指標（KPI）	R1目標値 実績値	R2目標値 実績値	R3目標値 実績値
1 ロケツーリズムを活かした商工観光振興事業			
主要観光施設来客数（道の駅くじやませ土風館） 【H30年度：60万人】	64万人 75万人	68万人 60万人	72万人
外国人観光客数（三陸鉄道久慈駅及び海女センターにおけるシール調査） 【H30年度：700人】	725人 813人	750人 44人	775人
自然体験等受入団体（教育旅行団体＋一般旅行団体） 【H30年度：19団体】	53団体 61団体	58団体 44団体	63団体
ふるさと納税件数 【H30年度：9,000件】	9,300件 29,980件	9,600件 18,700件	9,900件

2 雇用と移住定住によるトータル人材獲得事業（R2年度実績）

①事業の背景目的

久慈市の社会減は、10代後半～20代前半の市外への就学や就職が大きな割合を占めている。大学生や高校生を対象とした県調査によれば、「岩手県に本社がある企業を知らない、または知っている企業が5社以下」の回答が約9割にのぼり、地元企業を知る機会がないことや就職したい職種がないことが課題となっている。

このことから、久慈市で暮らすことを選択肢の一つとして捉えてもらうため、地元の企業や暮らしについてイメージを持ち、同年代同士での交流を深めながら、地域で活躍する人材を確保・育成を目指す。また、企業からは人材獲得や職場体験受入等のノウハウ不足を感じる声が多くあることから、企業向けセミナー等で人材獲得支援の強化を図る。また、地元就職の離職率は約3割であり、雇用のマッチングミスが生じていることから、企業の採用力強化及び定着に向けたフォローを実施し、企業間同士で情報を共有しながら一体となってノウハウを蓄積する。

移住定住については、進学等により市外へ転出した場合も、地元へ戻るきっかけや受入環境を整備するため、転出者への効果的な情報伝達によりUターン者を増加させる。

②計画期間

令和元年度～令和3年度（3カ年）

③令和2年度事業実績

単位：円

事業内容	事業費(A)	交付対象額(A)×1/2
2 雇用と移住定住によるトータル人材獲得事業	6,251,091	3,125,545
(1) 新卒者定着支援フォローアップ事業		
①新卒者定着支援フォローアップ事業		
・人材確保及び定着支援に係る事業（委託料） 就職後の離職防止やKターン就職者の雇用の受け皿の拡大、事業者の情報発信力強化を図るため、次の事業を実施した。 人材定着支援事業 採用3か月研修会、採用6か月研修会 人材確保事業 情報共有会（6回）、就職ガイダンス（2回）、大学等訪問ツアー 人材育成支援事業 育成計画作成研修会	1,756,680	878,340
(2) 若者の雇用定着推進事業		
①若者の雇用定着推進事業		
・委託料 ・消耗品費 高卒新卒者の地元就職の推進を図るとともに、地元を離れて高等教育機関に進学する若者へも、地元就職する糸口となる意識付けを図り、地元企業の魅力や地元での暮らし方のPRを進める事を目的に、中学校におけるキャリア教育の推進に資する事業を次のとおり実施した。 4月 キャリア教育ステッカー作成・配布 事業所向け出前事業・社会体験ハンドブックの作成・配布 7月7日 学校向け社会体験事前事後学習マニュアル等の作成・配布 11月10日～19日 キャリアオーケストラミニ（オンライン） 12月15日 キャリア教育推進連携シンポジウム ※社会体験Week、キャリア教育研修会等についてはコロナ禍により中止	3,891,585 19,826	1,955,705
(3) 関係人口の拡大と都市圏の移住定住促進		
①関係人口の拡大と都市圏の移住促進		
・オンライン移住・定住イベント開催費（委託費） 海の魅力（もぐらんぴあ）、山の魅力（内間木洞）、まちの魅力（久慈秋まつりお囃子・恐竜の化石）を発信し、参加者と双方向での交流が図られた。また、関係人口の拡大、移住希望者1名の獲得につながった。 【開催日：令和3年2月27日】	583,000	291,500

④事業の課題

市内事業者向け研修会の実施により、事業者個々の意識醸成につながっており、インターンシップ受入企業数の増加につながっている。しかしながら、大学等への進学傾向が高まっていることから、新規高卒者の管内就職率は減少してきている。

本事業により人材定着に向けた研修、事業者向け研修等を実施し、離職防止、採用活動促進に取り組んできたところであるが、大学等への進学傾向が高まっていることから、大卒人材獲得に向けた採用活動を実現できるよう、研修内容を改良していく必要がある。

中学校段階からのキャリア教育については、取り組みを始めてから3年目であるが、事業者からの説明を聴講するキャリアオーケストラについては、コロナ禍によりオンラインで実施したところである。前年度実施したキャリアオーケストラでは、学校側の意向を踏まえた形で多くの事業者の話を聴講することができたことと比較して、業種が制約されたところであり、来年度以降、説明側の充実を図っていく必要があるととらえている。なお、本事業により、中学生に対する市内の事業者・業種の周知が進んでいるものととらえている。今後も継続して行うことで、将来の就職先として市内事業者が選択されるよう継続する必要がある。

関係人口の拡大と都市圏の移住促進については、オンラインを使用した関係性の構築にどのような内容のイベントを実施することが効果的か、また構築した関係性を中長期的なものとし、どのように移住に繋げていくか研究が必要である。

⑤重要業績評価指標

重要業績評価指標 (KPI)	R1目標値 実績値	R2目標値 実績値	R3目標値 実績値
2 雇用と移住定住によるトータル人材獲得事業			
久慈管内新規高卒者の管内就職率 【H30年度：46%】	47.0% 42.8%	48.0% 38.1%	49.0%
行政関与移住者（移住相談会、空き家バンク、住宅補助制度等の制度活用による移住者） 【H30年度：30人】	25人 16人	25人 16人	25人
高等教育インターンシップ受入企業数 【H30年度：9社】 ※累計	10社 13社	11社 15社	12社
北三陸久慈市ふるさと大使及び移住LINE@新規登録者 【H30年度：120人】	60人 81人	60人 71人	60人

3 まちなか賑わい再生事業（R2年度実績）

①事業の背景目的

平成19年5月から令和2年3月までの間、中心市街地の活性化を目的に、内閣府が認定する中心市街地活性化基本計画を2期実施し、「やませ土風館」及び「情報交流センター」の建設など各種事業を実施した。やませ土風館及び情報交流センターを中心市街地の集客拠点とし、市内外から人を集め、併せてその導線にある地元商店街の魅力向上を図ることにより、中心市街地全体の回遊性を高めながら、滞在時間の延長と消費を促すことができる仕組みを構築することで、中心市街地の活性化の再生を目指す。

また、当市の観光資源は海女、琥珀、闘牛など多種あるが、これに加え、平成31年4月に白亜紀後期のティラノサウルス類の歯の化石が国内で初出土したことから、官民あげて新たな観光資源化を目指し取り組みを進め、観光色の弱かった地元商店街と有機的に結び付け、まちと観光の相乗効果を発揮させることで互いの持続的な発展を実現し、個性と多様性にあふれる魅力的なエリア形成を目指す。

②計画期間

令和2年度～令和4年度（3カ年）

③令和2年度事業実績

単位：円

事業内容	事業費(A)	交付対象額(A)×1/2
3 まちなか賑わい再生事業	7,369,902	3,684,951
(1) 商店街の基盤づくりに対する支援		
①魅力向上への支援		
・中心市街地エリア魅力向上モデル事業（補助金） 市街地エリアの活性化を図るため、商店街に顔出しパネル（2枚）、イラスト付きベンチ（10台）を設置した。	500,000	250,000
(2) 市街地イベント		
①街なか回遊性向上事業		
・べっぴん夜市事業費補助金（補助金） 市街地に賑わいを創出し個店の認知度アップを図るため「べっぴん夜市」（7/31、10/23）及び「べっぴん昼市」（12/20、2/14）を開催した。	1,260,000	
②賑わいづくりチャレンジャー事業		
中心市街地エリアを主会場とし、団体またはグループが実施する新規イベントに支援を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり実施団体はなかった。	0	
③街なか拠点施設魅力向上事業		
・観光交流センター魅力向上事業（委託料） 観光・特産品の情報発信、歴史・文化等の伝承活動、市内外の交流の実現のためのイベントを実施した。（カルチャー講座、山車展示、YOMUNOSUオープニングイベント等）	1,149,940	
・街なか拠点施設魅力発信事業（委託料） 施設の魅力を発信するため、YOMUNOSUのSNS、ホームページを開設した。YOMUNOSUともぐらんぴあで連携し、企画コーナーの設置をした。	1,500,000	
④まつり・イベントによる賑わいづくり事業		
・図書館で行うまちの魅力発見事業（委託料） 絵本作家による講演会を開催し、本に親しむことや子育てを見直す機会を提供した。また、YOMUNOSUを会場に恐竜を題材とした子どもたちのワークショップを実施した。	498,322	
・久慈商店会連合会補助金（補助金） 魅力ある商店街づくりを推進するため、商店会が行うヤマセあきんど祭り事業に対して補助を行った。	1,025,000	6,180,402
・久慈春まつり補助金（補助金） 久慈商工会議所青年部が主催し、屋台の出展や、中高生の吹奏楽ステージ、任意団体のダンスなど久慈市の若い力を感じさせるイベントの開催を予定したが、新型コロナウイルス感染症の情勢により中止した。	0	
・久慈秋まつり実行委員会負担金（負担金） 600年余りの歴史を誇る岩手県北最大規模の祭り。8組の山車組による高さ10mを超える創作山車と、活気あふれる神輿が市内目抜き通りを通る豪華絢爛な祭りを予定したが、新型コロナウイルス感染症の情勢により中止。 代替として、道の駅の山車展示スペースにおいて、10月～3月に観光客向けお囃子実演を実施した。	300,000	
・久慈納涼花火大会実行委員会負担金（負担金） 久慈市の夏の風物詩として親しまれる花火大会の開催を予定したが、新型コロナウイルス感染症の情勢により中止。 中止決定までの準備経費と中止広報経費を支出。	250,000	
⑤街なか連携観光誘客事業		
・久慈市街なか連携観光誘客推進協議会負担金（負担金） 市内観光施設の二次交通対策事業として、タクシーの割引補助を行うプランを実施した。 【実績：112件】 街なか周遊を促すため「北三陸冬の市」（2/14）の実施に協力、久慈商工会議所主催の「べっぴん昼市」とも連携し中心市街地で屋台出店、お買物抽選会等を実施。	197,140	
(3) 空き店舗出店費補助		
①空き店舗出店費補助		
・空き店舗出店費補助金（補助金） 中心市街地の賑わい創出のため、中心市街地にある空き店舗を改装して出店する者に改装工事費の2分の1（上限50万円、新規出店の場合は25万円）を補助。 【実績：3店舗】	689,500	344,750

④事業の課題

不特定多数が参加する祭り、花火大会は実施が困難とそれぞれの実行委員会で判断された。規模、方式により実施の可否について、検討の余地がある。新型コロナウイルス感染症の影響により市街地集客イベントは規模縮小、中止などになり来街者数が減少した。

⑤重要業績評価指標

重要業績評価指標 (KPI)	R2目標値 実績値	R3目標値 実績値	R4目標値 実績値
3 まちなか賑わい再生事業			
拠点施設来客数（道の駅くじやませ土風館及び情報交流センター）	857,557人 725,237人	892,557人	892,557人
歩行者・自動車通行量（久慈商工会議所調査）	4,319人 3,187人	4,919人	5,519人
中心市街地における年間新規出店件数	5件 3件	5件	5件
ふるさと納税件数	26,500件 18,700件	27,000件	27,500件

令和2年度地方創生拠点整備交付金の事業実績

1 北三陸の海・山・里・ひとつをつなぐ交流拠点施設整備事業

①事業の背景目的

令和3年の三陸沿岸道路全線開通により、沿岸部への交通のシフトが見込まれ、観光や地場産品に対する需要増加とそれに伴う雇用・販路の拡大が予想されるが、道路沿いにはそれらのサービスを提供する場がない。当地域は八戸市や宮古市といった大きな都市の間に位置することから、三陸沿岸道路の開通に伴うストロー効果により、観光目的などの道路利用者が通過する恐れがある。

ことから三陸沿岸道路の整備・開通に伴う経済・ストック効果による地域活性化への波及効果を十分に享受するための拠点・核となる久慈広域のゲートウェイ機能を持った久慈広域道の駅を令和4年度を目標に整備することとした。

当該施設を活用した農林水産物の生産・消費拡大や三陸ジオパークをはじめとする観光資源や農漁村での民泊の受け入れ等を通じた都市部との交流人口の拡大、施設を核とした広域管内での世代間交流、久慈広域圏への観光客等の誘導による経済活動の活性化の効果を久慈市のみならず久慈広域で最大限享受することで、第1次産業の振興や交流人口の拡大による既存施設の活性化などの地域課題の解決を目指し、高い経済波及効果と施設を拠点としたまち・ひと・しごとの創生と好循環を生み出そうとするものである。

②計画期間

令和2年度～令和4年度（3カ年）

③令和2年度事業実績

単位：円

事業内容	事業費(A)	交付対象額(A)×1/2
1 北三陸の海・山・里・ひとつをつなぐ交流拠点施設整備事業	17,672,941	8,490,000
(1) 情報発信施設の建築に係る基本及び実施設計		
①設計業務		
・建設基本設計	5,911,400	14,867,941
・建設実施設計	8,956,541	
購買、休憩といった従来の道の駅機能はもとより、地域住民や子育て世代の利用頻度を高める新たなコミュニティを創出することで地域振興を図る道の駅として、「北三陸の魅力発信基地～子供が楽しく遊べる「秘密基地」」をテーマに、キッズスペースを含めた物販・加工・飲食施設等を備えた地域振興施設、久慈広域4市町村の地元・特産物・観光イベントなどの地域情報を広く発信する情報発信施設の建築に係る基本設計、及び実施設計の一部について実施した。		7,390,000
(2) 事業用地の測量及び地質調査		
①各種調査		
・測量調査	1,155,000	2,805,000
・地質調査	1,100,000	
当該施設を整備するために必要となる、事業用地の測量及び地質調査を実施した。		1,100,000
②設計業務		
・道路予備設計	550,000	
当該施設の利用者が、安全にアクセスするための右折レーンの予備設計を実施した。		

④重要業績評価指標

重要業績評価指標 (KPI)	R2～R4目標値	R5目標値	R6目標値
	実績値	実績値	実績値
1 北三陸の海・山・里・ひとつをつなぐ交流拠点施設整備事業			
本施設の年間売上	0千円 0千円	263,948千円	263,948千円
本施設の利用者数	0千人 0千人	293千人	293千人
久慈広域における既存道の駅のレジカウント通過客数	0千人 0千人	31千人	21千人
本施設の物販施設において、農林水産品等の卸を新規に行う地域内の事業者及び個人事業者数	0者 0者	8者	13者

1 ロケツーリズムを活かした商工観光振興事業（R3年度計画）

①事業の背景目的

市への観光客数は「あまちゃん」放送後の平成26年をピークに放送前の観光客数に戻りつつあり、ブームを一過性にせず、交流人口の拡大につなげる取組が急務となっている。このような状況の中、海外では、アジア等10カ国で「あまちゃん」が放送されるなど、外国人観光客の認知も日毎に増加していることから「あまちゃん」と久慈市を結びつけ、久慈市のファンを継続的に獲得していくことにより、関係人口の拡大を目指す。

また、ロケによる効果的なPRで地場産品の認知性を高めるとともに、ふるさと納税者を増加させることで、地場産業の振興につなげる。更には、あまちゃんに関連したコンテンツと体験型観光を連携させることで、実際に久慈市を体感してもらい、移住定住者の増加を目指す。これらの取組により、観光を基軸として地場産業の拡大、雇用の維持、移住促進を進めることで持続的な地域振興を目指す。

②計画期間

令和元年度～令和3年度（3カ年）

③令和3年度事業計画

単位：千円

事業内容	計画額(A)	交付対象額(A) × 1/2
1 ロケツーリズムを活かした商工観光振興事業	22,985	11,492
(1) 「あまちゃん」を活用した誘客事業		
①ロケツーリズム推進事業		
<ul style="list-style-type: none"> ロケツーリズム協議会参加によるセミナー、情報発信（負担金） 550 2021年度公開予定のロケ地マップ作成、PRキャンペーン（委託料） 1,380 2021年度公開予定の映画上映会イベント（委託料・会場借上料） 676 ロケツーリズム協議会を通じて、ロケ誘致を展開し、令和3年公開予定の映画誘致に成功した。この成果を活かし、PRイベントの開催やロケ地マップ等を作成し、誘客を図ることで主要観光施設来客数の拡大を図る。		
<ul style="list-style-type: none"> 北三陸あまちゃん観光推進協議会によるロケ地活用PRイベント等開催（負担金） 3,000 CMや観光情報誌を活用したPR（広告料） 1,494 久慈市観光ガイドブック等作成 1,749 「あまちゃん」に登場した地域資源やイベント、文化など、ロケ地を最大限活用した誘客を推進するため、アフターコロナに向け受入れ態勢の整備を行う。また全国的に地域の魅力をPRするために、様々な媒体を活用した宣伝広告を行い、観光客の誘客を促進する。	10,349	5,174
<ul style="list-style-type: none"> ロケ地をコースとした「あまちゃんマラソン大会」（負担金） 1,500 新型コロナウイルス感染症予防対策（手指消毒、フェイスシールド、マスク等）や、定員制限（1,300人⇒800人）、地域制限（県内・北奥羽地域）を講じ、9月26日に開催予定。		
(2) 体験型観光推進事業		
①自然体験推進事業		
<ul style="list-style-type: none"> 教育旅行等受入推進事業 1,173 体験観光受入体制構築（ふるさと体験学習協会補助金） 9,500 ヘルスツーリズムPR（新聞掲載料） 300 ヘルスツーリズムコース管理※草刈り（委託料） 100 教育旅行・ヘルスツーリズム等、体験型観光の受け入れを実施するとともに、都市部の旅行代理店や学校関係者に対して誘致を行う。令和元年より商品化した、ヘルスツーリズム商品の認知度向上に向け、一般客向けにPRするため紙面広告等を実施する。	11,573	5,786
②自然体験メニュー拡充推進事業		
<ul style="list-style-type: none"> 三陸ジオパーク推進協事業（協議会負担金） 500 地域資源を活用した自然体験ができる、みちのく潮風トレイルの利用者拡大と三陸ジオパークを活用した交流人口拡大のため、セミナーによる普及啓発、ガイド育成、ジオパーク授業の開催を行う他、周辺市町村と連携したイベント等による普及啓発を行う。		
(3) 民泊整備推進事業		
<ul style="list-style-type: none"> 民泊整備推進事業（トイレ、内装等） 1,000 民泊施設のトイレ及び内装等を改装することにより、受入体制の充実と満足度向上につながり、今後の誘客増加を見込む。	1,000	500
(4) ヘルスツーリズムコース整備		
<ul style="list-style-type: none"> 丸太型ベンチ設置業務（委託料） 63 コース途中において、体力測定用及び休憩スポットとして丸太型ベンチを設置し、基礎体力をその場で判定することで、参加者の健康意識向上につなげるとともに、休憩スポットとして活用することで、ヘルスツーリズムの満足度を上げ、リピート率を向上させる。	63	32

④課題への対応策

ロケツーリズム事業について、映画、テレビ番組に取り上げられることにより相応の広告効果が得られることから、継続して実施する。また、制作者間のつながりにより当市でのロケを紹介される例が増えてきており、継続による効果を実感している。

新たに誘致した映画の公開が年度内に予定されていることから、公開に併せて当市のPRを行っていく。後段のおかえりプロジェクトと合わせ、情勢を見ながら受入れ態勢整備から誘客に向けてシフトしたい。

教育旅行関係については、海の体験プログラムが少ないため、現在の受入地域である侍浜町に隣接した夏井町での民泊家庭・体験プログラムの充実を図る。方面変更を検討している学校や旅行会社へ引き続き営業活動を行っていく。

2 雇用と移住定住によるトータル人材獲得事業（R3年度計画）

①事業の背景目的

久慈市の社会減は、10代後半～20代前半の市外への就学や就職が大きな割合を占めている。大学生や高校生を対象とした県調査によれば「岩手県に本社がある企業を知らない、または知っている企業が5社以下」の回答が約9割にのぼり、地元企業を知る機会がないことや就職したい職種がないことが課題となっている。

このことから、久慈市で暮らすことを選択肢の一つとして捉えてもらうため、地元の企業や暮らしについてイメージを持ち、同年代同士での交流を深めながら、地域で活躍する人材を確保・育成を目指す。また、企業からは人材獲得や職場体験受入等のノウハウ不足を感じる声が多くあることから、企業向けセミナー等で人材獲得支援の強化を図る。また、地元就職の離職率は約3割であり、雇用のマッチングミスが生じていることから、企業の採用力強化及び定着に向けたフォローを実施し、企業間同士で情報を共有しながら一体となってノウハウを蓄積する。

移住定住については、進学等により市外へ転出した場合も、地元へ戻るきっかけや受入環境を整備するため、転出者への効果的な情報伝達によりUターン者を増加させる。

②計画期間

令和元年度～令和3年度（3カ年）

③令和3年度事業計画

単位：千円

事業内容	計画額(A)	交付対象額(A)×1/2
2 雇用と移住定住によるトータル人材獲得事業	7,613	3,806
(1) 新卒者定着支援フォローアップ事業		
①人材確保 ・事業主の採用スキルアップ（情報交換会の実施等） ・新卒者等と事業主とのマッチングの機会提供（HP等の情報発信、就職セミナー開催等） ・大学生をターゲットとした企業による大学訪問ツアー ・大卒採用を始めた企業の情報交換会 就職後の離職やKターン就職者の雇用の受け皿、事業者の情報発信力を強化するため、各種事業を実施する。コロナ禍であることから、オンライン方式など感染防止対策を講じ、事業を実施することで事業効果を上げる。	2,718	1,359
②定着支援 ・事業主の人材育成・定着スキルアップ（情報交換会の実施等） 県が実施する事業主及び新採用向け研修と連携し、現在開催している情報共有会の中で各社の人材の採用・育成・定着に係るノウハウを共有し、地域全体のスキルアップを図る。		
③参加企業による情報交換・組織化に向けた検討 既存組織が各企業等と連携し、各種事業を継続する仕組みづくりを進める。		
(2) 若者の雇用定着推進事業		
・小学校から高校における職場見学、職場体験、インターンシップ、出前講座等の実施 ・高等教育機関等からのインターンシップ受入 ・事業主・学校のキャリア教育受入・実施スキルアップ（研修の実施等） ・保護者に対する普及啓発等 市内全中学生を対象に「キャリアオーケストラ」と題して、企業説明会を開催する予定。感染症対策の観点から、ソーシャルディスタンスを確保するため、移動バスを増便して実施する。	4,895	2,447

④課題への対応策

新卒者定着支援フォローアップ事業について、市内事業者向け研修会を実施し、大卒向け採用活動を見据えた研修を実施することとしている。併せて、離職防止、採用活動を改善していくため、市内数社を対象とした個別フォローアップを実施することとし、大卒人材確保に向け取り組むこととした。

若者の雇用定着推進事業について、コロナ禍が継続している状況であるが、キャリアオーケストラミニをオンラインで開催する。内容については、市内事業者により多く参加いただくことにより、生徒の選択肢を増やすほか、社会体験についても、コロナの状況を勘案しながら、できるだけ実施することとしたい。

3 まちなか賑わい再生事業（R3年度計画）

①事業の背景目的

平成19年5月から令和2年3月までの間、中心市街地の活性化を目的に、内閣府が認定する中心市街地活性化基本計画を2期実施し、「やませ土風館」及び「情報交流センター」の建設など各種事業を実施した。やませ土風館及び情報交流センターを中心市街地の集客拠点とし、市内外から人を集め、併せてその導線上にある地元商店街の魅力向上を図ることにより、中心市街地全体の回遊性を高めながら、滞在時間の延長と消費を促すことができる仕組みを構築することで、中心市街地の活性化の再生を目指す。

また、当市の観光資源は海女、琥珀、闘牛など多種あるが、これに加え、平成31年4月に白亜紀後期のティラノサウルス類の歯の化石が国内で初出土したことから、官民あげて新たな観光資源化を目指し取り組みを進め、観光色の弱かった地元商店街と有機的に結び付け、まちと観光の相乗効果を発揮させることで互いの持続的な発展を実現し、個性と多様性にあふれる魅力的なエリア形成を目指す。

②計画期間

令和2年度～令和4年度（3カ年）

③令和3年度事業計画

事業内容	計画額(A)	単位：千円	
		交付対象額 (A) × 1/2	
3 まちなか賑わい再生事業	14,815	7,407	
(1) 商店街の基盤づくりに対する支援			
① 魅力向上への支援			
・ 中心市街地エリア魅力向上事業 久慈市が推奨する観光コンセプトに沿った商店街の設備等に対し支援する。本年度は、恐竜をモチーフとした作画を絵本作家に依頼。昨年度商店街に設置したベンチ10基に、デザインした絵を張り付ける。	1,000	1,000	500
(2) 市街地イベント支援			
・ 街なか回遊性向上事業 中心市街地への屋台出店をメインとしたイベント「べっぴん夜市」を開催し、中心市街地の賑わい創出を図る。	1,565	10,565	5,282
・ 賑わいづくりチャレンジャー事業 中心市街地エリアを主会場とし、団体・グループが実施する新規イベントを支援する。	500		
・ 街なか拠点施設魅力向上事業 やませ土風館・情報交流センターの連携による中心市街地回遊性向上に資する魅力向上イベントを実施する。	2,000		
・ まつり・イベントによる賑わいづくり事業 中心市街地エリアを主会場とする、久慈春まつり、秋まつり、花火大会などの魅力向上イベントを実施する。	5,500		
・ 街なか連携観光誘客事業 観光客を中心市街地に誘客するための事業を実施する「街なか連携観光誘客推進協議会」への負担金	1,000		
(3) 空き店舗出店費補助			
事業者が空き店舗に新規出店する際に要する改装費への支援を行う。	1,250	1,250	625
(4) 無料駐車帯整備事業			
中心市街地内の公道を活用し無料駐車帯を整備することで、利便性が向上し、中心市街地への誘客を図る。	2,000	2,000	1,000

④課題への対応策

イベントについて規模、方式により実施できるものがあることから実施団体と協議し、可否について検討する。コロナ禍においてもイベントが実施できるよう出入口制限、検温、消毒など対策を検討する。

4 被災3県ドラマ舞台地の連携による観光周遊促進と新たな産業創出に向けた関係人口拡大おかえりプロジェクト(R3年度計画)

①事業の背景目的

東日本大震災以降に朝ドラの舞台地となった福島市・気仙沼市・久慈市の3市が連携し、朝ドラファンや被災自治体に関心を持つ層に対し共同してPRを行うことで、これまで単独自治体では接触できていなかった潜在的な被災地域関心層への訴求拡大や観光誘客の推進を図る。また、地域の魅力ある商品の開発や受入体制の充実により「地域のブランド力・包容力」の向上を進め、観光誘客を一時的な訪問や単発の消費に終わらせず、再訪を促し、継続的に関係人口として交流を進めていくことで、朝ドラのチャンスを復興後の地方創生に向けた強力な原動力として活用（「朝ドラ復興ツーリズム」）し、全国から「選ばれるまち」（「朝ドラ復興ツーリズム」から、交流人口や長期滞在者を増やし、関係人口増大・移住定住につながるまち）を目指していく。

②計画期間

令和3年度～令和5年度（3カ年）

③令和3年度事業計画

事業内容	計画額(A)	単位：千円	
		交付対象額(A) × 1/2	
4 被災3県ドラマ舞台地の連携による観光周遊促進と新たな産業創出に向けた関係人口拡大おかえりプロジェクト	14,440	7,220	
(1) 観光・物産・移住定住情報発信センター運営費			
・東京交通会館PRセンター設置経費（負担金） センターを拠点として、首都圏在住者をターゲットに、ドラマ紹介を含めた地域の観光PR、開発商品を含む商品やワーケーション等の観光プログラムの販売を促進し、地域と首都圏間の関係人口の拡大を図る。	7,440	7,440	3,720
(2) 宣伝広告費			
・広告掲出、雑誌媒体広告、SNS広告掲出（負担金） 朝ドラ舞台周遊（朝ドラ復興ツーリズム）や開発商品販売を促進するための広告・宣伝、観光客の再訪や中長期的な交流を進め、関係人口化していくための情報発信を行う。	1,000	1,000	500
(3) 観光物産PR・移住促進合同おかえり事業			
・ロゴ名称、映像使用料等の権利処理関係経費（負担金） 新旧朝ドラの合同プロモーションに当たり、ロゴ名称や映像使用料等の権利処理関係経費を確保し、プロモーション効果を高める。	3,000	3,000	1,500
(4) 商品開発費			
・3市周遊・相互送客する旅行商品の造成・販売、個人旅行向けモデルツアーの開発（委託料） 朝ドラに関連する地域をめぐる旅行商品やモデルコースを旅行会社に委託して造成・販売する。また、観光客の輸送手段やガイドに市内企業、観光関連団体を組み込み、地域の仕事づくりやノウハウの獲得による自立・発展的なコンテンツの開発へとつなげる。	3,000	3,000	1,500

令和3年度地方創生拠点整備交付金の事業概要

1 北三陸の海・山・里・ひとつをつなぐ交流拠点施設整備事業

①事業の背景目的

令和3年の三陸沿岸道路全線開通により、沿岸部への交通のシフトが見込まれ、観光や地場産品に対する需要増加とそれに伴う雇用・販路の拡大が予想されるが、道路沿いにはそれらのサービスを提供する場がない。当地域は八戸市や宮古市といった大きな都市の間に位置することから、三陸沿岸道路の開通に伴うストロー効果により、観光目的などの道路利用者が通過する恐れがある。

ことから三陸沿岸道路の整備・開通に伴う経済・ストック効果による地域活性化への波及効果を十分に享受するための拠点・核となる久慈広域のゲートウェイ機能を持った久慈広域道の駅を令和4年度を目標に整備することとした。

当該施設を活用した農林水産物の生産・消費拡大や三陸ジオパークをはじめとする観光資源や農漁村での民泊の受け入れ等を通じた都市部との交流人口の拡大、施設を核とした広域管内での世代間交流、久慈広域圏への観光客等の誘導による経済活動の活性化の効果を久慈市のみならず久慈広域で最大限享受することで、第1次産業の振興や交流人口の拡大による既存施設の活性化などの地域課題の解決を目指し、高い経済波及効果と施設を拠点としたまち・ひと・しごとの創生と好循環を生み出そうとするものである。

②計画期間

令和2年度～令和4年度（3カ年）

③令和3年度事業計画

単位：千円

事業内容	計画額 (A)	交付対象額 (A) × 1/2
1 北三陸の海・山・里・ひとつをつなぐ交流拠点施設整備事業	165,391	82,695
(1) 施設整備		
①設計業務		
・ 建築実施設計 「購買」「休憩」といった従来の道の駅機能はもとより、地域住民や子育て世代の利用頻度を高める道の駅として、「北三陸の魅力発信基地～子供が楽しく遊べる「秘密基地」」をテーマに、キッズスペースを含めた物販・加工・飲食施設等を備えた地域振興施設、久慈広域4市町村の地元・特産物・観光イベントなどの地域情報を広く発信する情報発信施設の建築に係る基本及び実施設計を行う。	7,891	69,945
②建築工事		
・ 建築工事	110,000	
・ 建築設備工事 当該施設建築工事を行う。	22,000	
(2) 効果促進事業（設備整備等）		
①設計業務		
・ 基盤整備実施設計 当該施設の外構等整備事業に係る実施設計を行う。	3,300	
②基盤整備工事		
・ 基盤整備工事（整地） 当該施設の利用者のための駐車エリアと、一年を通じてイベント開催や子育て世代の自由空間としてイベント広場等を整備するための整地等を行う。	18,900	12,750
③工事監理		
・ 基盤整備工事監理 上記基盤整備工事の工事監理を行う	3,300	